

第16回 ちゅうでん教育振興助成（平成28年度）

報告書資料 一般-97

学校名・団体名	阿波市立林小学校
HPアドレス	http://e-school.e-tokushima.or.jp/awa/es/hayashi/html/htdocs
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	地域の『ひと』『もの』『こと』にかかわる外国語科の学習
<p>〈活動・研究の意義，目的〉</p> <p>本校は英語教育強化拠点事業の指定を受け，高学年で週2時間の「外国語科」の授業を行っている。研究を通して教師の指導力も向上し，児童の英語の技能にも向上が見られる。しかし，指導力向上をめざした研究の推進は重要だが，それを重視するあまり児童の学習への動機付けや主体的な学びの過程では課題もあり，児童の中には「英語嫌い」も見受けられる。英語を使って「聞いてみたいな」「伝えたいな」など，自分のこととしてとらえてこそ，児童は授業を楽しく感じたり，英語を用いた活動に進んで取り組んだりする。国語科の「聞く」「話す」「読む」「書く」との関連を図るとともに，児童が主体的に活動したり，友達と協働的な学びを行ったりする場を設定する。そうすることで，人とのかかわりを意識し，互いの思いに共感するとともに，自ら深く考え，考えを伝え合う豊かなコミュニケーションが育まれるのではないだろうか。本研究では，国語科の言語事項の指導と英語表現を関連づけ「教師ウェビングマップ」を作成したり，英語を使って身近な「ひと」「もの」「こと」にかかわる指導方法を工夫したりすることを通して，児童の興味や関心を高めるとともに豊かなコミュニケーション能力を育成する。</p>	

1 活動時期及び内容

(1) 教師単元ウェビングマップの作成 (5月)

「Hi, friends! 年間指導計画例」をもとに、児童の実態に合わせて、単元の順番を変えたり、学校独自の単元を設定したりした。

その際、「どのような児童を育成したいか」「育てたい資質・能力」を明らかにするとともに英語科と他の教科等との関連や言語事項の充実を考慮した。

また、それぞれの単元にかかわっていただく地域の方々（国際的に活躍されている地元の方々・J A・いのちのリレープロジェクト・邦楽協会・福祉施設等）との連絡調整も図った。

(2) 地域の『ひと』『もの』『こと』にかかわる実践

児童が主体的に活動し、友達と協働的な学びが展開できる単元を通して、人とのかかわりを意識し、互いの思いに共感するとともに、自ら深く考え、考えを伝え合う豊かなコミュニケーションを育む。

- 5月 修学旅行で外国の方と交流しよう
- 6月 「伝統料理でALTをおもてなし」(漆塗りの高膳を使った精進料理づくり)
- 7月 英語の絵本を作成して低学年に紹介しよう
- 9月 「私の夢」を立体作品に製作し、英語で紹介しよう
- 11月 インドネシア研修生(蓬莱荘で勤務)らと和楽器体験で交流しよう
- 12月 「自慢料理でALTをおもてなし」
- 1月 パフォーマンス集会で表現しよう
- 1月 行ってみたい国を下級生に英語で紹介しよう
- 2月 学習発表会において、保護者の前で学習活動を生かした劇を発表しよう
- 3月 ようこそ先輩! 国際的に活躍している篠原さんに英語を学ぶ意義を学ぼう

2 主な実践活動と成果

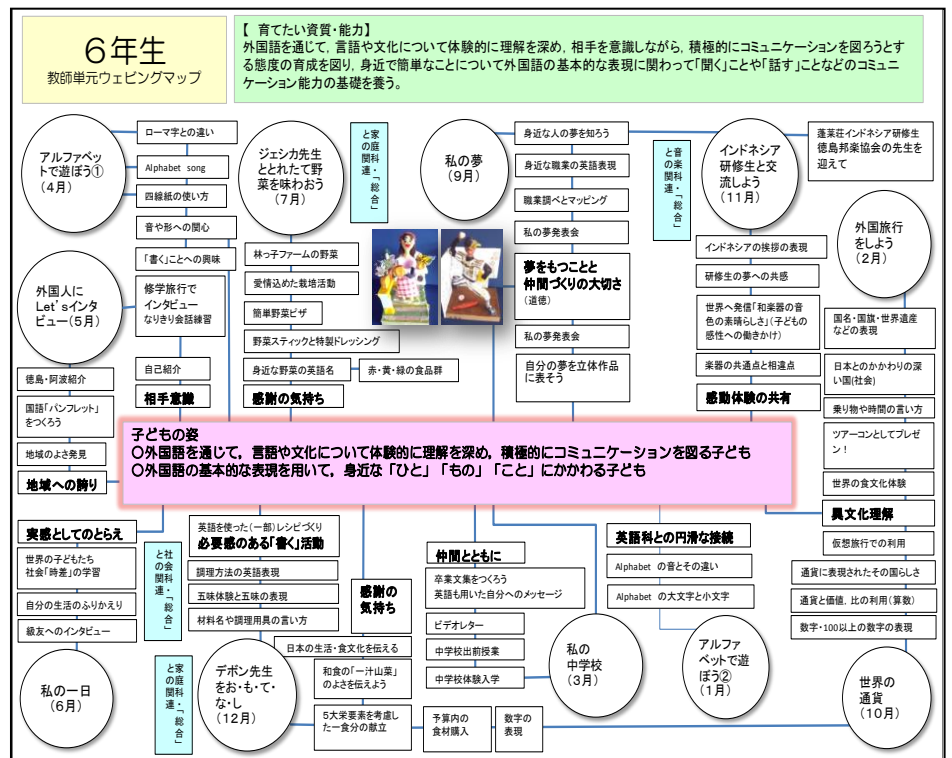
(1) 「インドネシア研修生と異文化交流ー邦楽演奏会と和楽器体験!をしようー」

(単元の概要)…校区にある福祉施設「蓬莱荘」には、インドネシアからの介護研修生が多く来ている。本校は、福祉体験等で交流をもっている。そこで、簡単なインドネシア語で自己紹介をすることや研修生とともに感動体験を共有することで、自他の文化を尊重することや相互の交流が深まることを目標とした。

ICTを活用し、インドネシアの文化や言語を知る学習で、「Nama saya kenji.」(私は、ケンジです。)のようにインドネシア語は、ローマ字読みはかなり近いことに気づく子どももいた。また、オランウータンやナシゴレン等が有名なことを知ることによって、インドネシアに親しみを持ち、交流を心待ちにする子どもも多くいた。当日は、邦楽協会の先生方による『春の海』等の邦楽鑑賞と和楽器の体験を行った。楽器の音色、響きの違いなどを感じ取りながら、伝統的な音楽のよさを共有することで、子どもとインドネシア研修生との親近感が生まれ、相互の交流も深まった。

<子どもの感想①> 今日、邦楽体験とインドネシアの方が来てくださるといって楽しい&うれしいことがありました。『春の海』や『越天楽今様』を演奏してくださいました。尺八や三味線、箏での演奏でした。これらの和楽器の中で、一番興味があったのは、箏です。あの美しい音色に心がひかれました。私は、インドネシアのリアさんと2人ペアになりました。2人で、いろいろな楽器を触ったり、音を出したりするのはとっても楽しかったです。リアさんもだんだんときん張りがとけて、最後には、とても親しくなったような気がします。交流ができてよかったです。蓬莱荘を訪問したいな。

▽単元ウェビングマップ (6年生の例)



(2) 「阿波の伝統料理で デボン先生をおもてなし」

和食は世界無形文化財に指定され、「一汁三菜」のよさが、国内外で認められている。また、阿波市には、たくさんの伝統料理が受け継がれている。そのよさをALTのデボン先生に知ってもらおうと、単元「伝統料理で デボン先生をおもてなし！」を設定した。「栄養のバランスだけでなく、デボン先生に喜んでもらえる調理に挑戦しよう」と子どもに提案することから学習がスタートした。日本食には「甘み」「酸味」「塩味」「苦味」「うま味」が、バランスよく揃っていることが特徴である。調味料のサンプルを用意し、『五味』を体験させた。

児童にとって、Bitter=苦いなどが、実感としてとらえられた。それぞれの味を感じ取り、英語表現に結びつけた。また、調理前にレシピに登場する材料や調理器具、調理方法（調理の動作）を表す英語表現を学んだ。調理当日は、デボン先生に既習の英語表現を用いて、懸命に伝えようとする児童の姿が見られた。

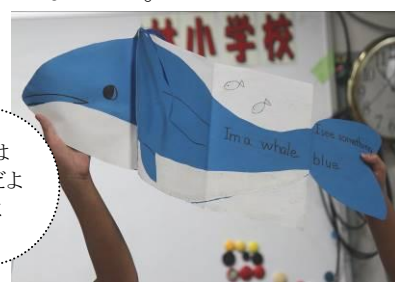
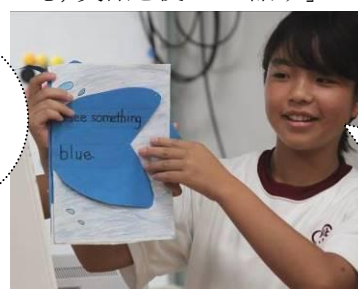


〈子どもの感想②〉

(略)「苦味」の正体は、ブラックコーヒーでした。私は、「おえ〜」とはきそうでしたが、先生が、「この苦みがしょう油に入っています。」と教えてくれた時には、とても驚きました。「甘み」「酸味」「塩味」「苦味」「うま味」の五味がバランスよくそろって、日本食のおいしさが出てくるんだと知りました。デボン先生にも教えたいです。そして、日本食が大好きになってほしいです。

(3) 「英語の絵本を作成して低学年に紹介しよう」

2年生に英語の絵本を紹介しました。この絵本は、6年生が各ページを分担して、「しかけ絵本」にしたものです。2年生の英語活動で学ぶ「Blue」「Brown」など簡単な英単語をヒントに何の動物が出てくるかストーリーのある絵本にした。伝える相手を意識して、楽しく「話す」「書く」活動を行った。2年生は、絵本を食い入るように見ている。6年生にとっても、英語を使って「話す」ことが自信につながった。



(4) 「行ってみたい国を紹介しよう」

自分の行ってみたい国を紹介しました。伝えたい思いを英語に置き換えて「書く」活動を取り入れています。社会科の単元「日本とつながりの深い国々」とも関連づけて指導を行いました。ALTのデボン先生によるパフォーマンス評価を行いました。また、下級生(1~5年生)にも紹介しました。



3 児童への効果

(1) 地域の「ひと」「もの」「こと」とかかわる単元構成を工夫し、「人と人のつながりや交流、対話」を大切にする外国語科を通じて、「言葉とは人を理解するためにあり自分を理解してもらうためにあること」、そして、「自分の思いを相手に伝えることの大切さ」を感じ取ることができた。

(2) 身近な「ひと」「もの」「こと」とかかわることで、児童が主体的に学習し、相手を意識して英語表現を用いて積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿が多く見られるようになった。他教科の学習内容や活動を外国語活動に取り入れる授業に対して、児童は次のような感想を書いた。

- ・体験を通して、英語を使ったので覚えやすくてよかった。
- ・他の人(地域の人とか)とコミュニケーションがとれるので、他の教科との関連した学習が楽しい。
- ・普段の英語学習より体験と結びつけた学習が、英語を使う場面が多いので覚えやすいと思う。
- ・体験を通して、書くこともどんどんやってみたい。
- ・私は英語が苦手だけど、音楽や家庭科と合わせて英語を学ぶと英語が使えるのでいいと思う。
- ・デボン先生と調理をして楽しかった。調理方法をデボン先生が英語で話してくれたとき、わかるようになったのでうれしかった。